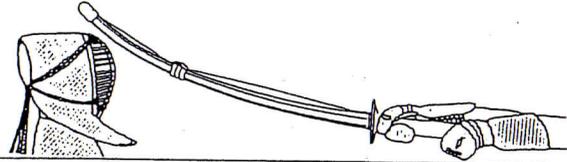
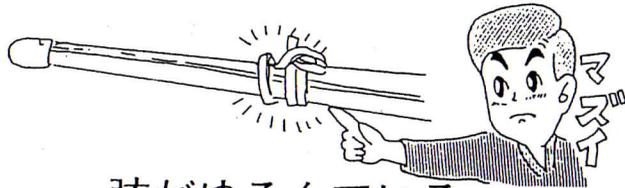


打突時、竹刀はこのようになります。

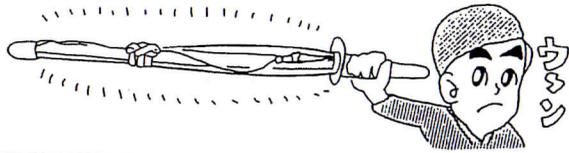


しかし！こんな竹刀だと…

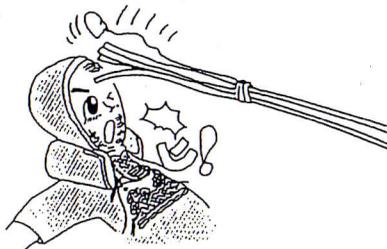
中結いがゆるんで正しい位置にない



弦がゆるんでいる



先革から竹が抜けて目に刺さり、
失明という事故がありました



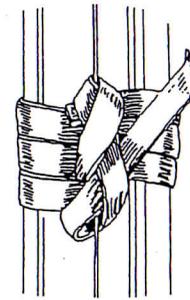
このマニュアルを読んで、

安全のために
竹刀や防具を
手入れしよう！

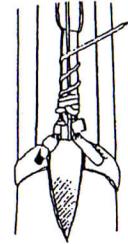
竹刀

分解のしかた

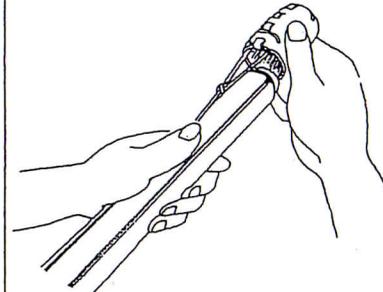
① なかむす 中結いをほどきます。



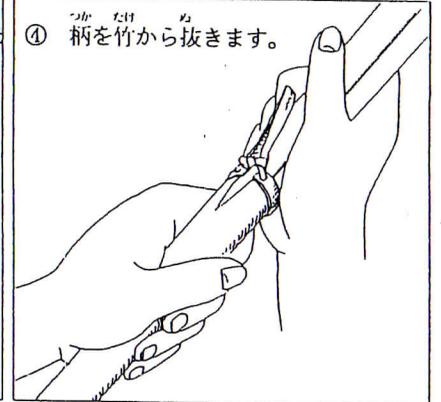
② つる 弦をほどきます。



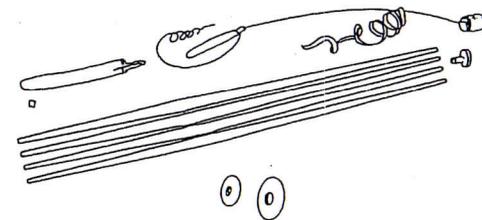
③ さしがわ 先革はずします (先ゴムが竹刀の先に残るように、竹を押さえながら)



④ つかたけ 柄を竹から抜きます。



⑤ ぜんぶ 全部ばらばらにすると… (竹を一本ずつ削るときなど、ばらばらにします)

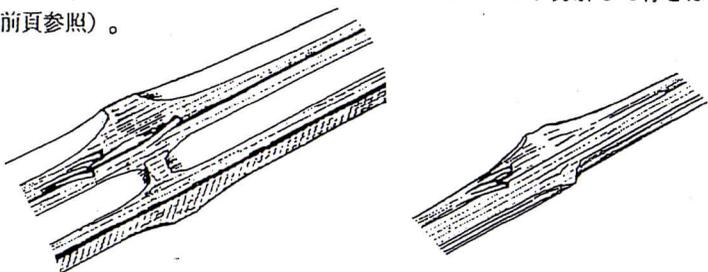


竹刀

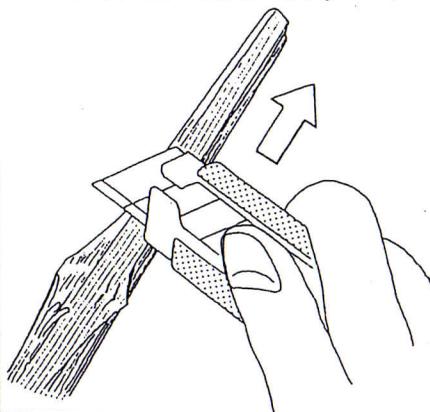
修理方法

「ささくれ」の取り方

- ① 「ささくれ」ができたときは、柄を残して分解をするか、分解して竹をはずします（前頁参照）。

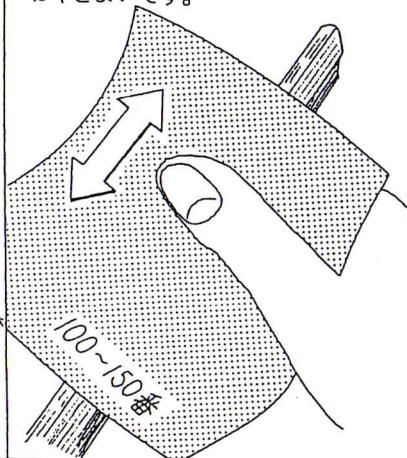


- ② カッターややすり、または専用のしない削りを直角に当てて、竹刀の元から先へ動かし、ささくれを削り取ります。刃物を竹刀の先から元へ動かすと、刃物が竹に食い込んでしまいます。

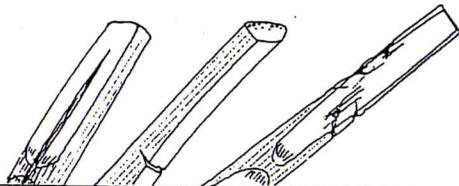


- ③ 布やすりで表面をきれいにしても良いです。

このあと、ワセリンやろうを塗っておくとよいです。



注意) 割れたり（縦割れ、横割れ）、折れた竹は使えません。テープなどで補修して使うこともダメです。

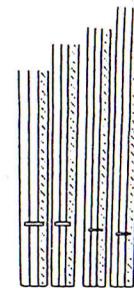
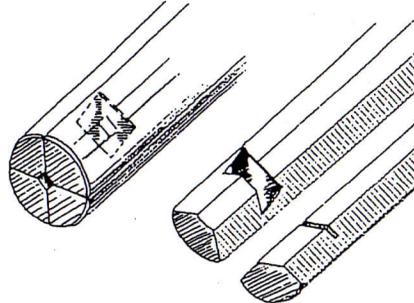


竹刀

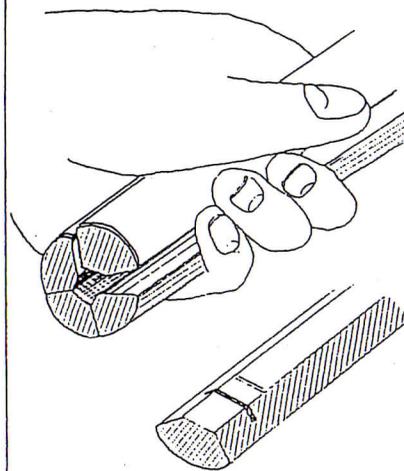
組み替え方法

割れたり、折れたりして他の竹と合わせて竹刀を組み替えるとき

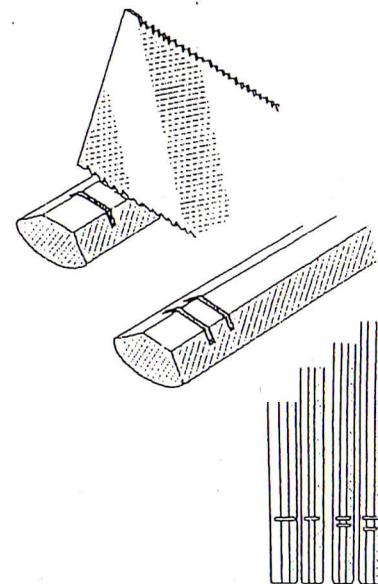
- ① 竹刀の柄頭には「契り」という鉄の板が入っています。これは、柄の竹刀が動かないため、また竹が抜け出ないためです。竹に溝を切ってはめてあります。
- ② 他の竹刀と組み合わせるときは、この溝が合いません。



- ③ そこで溝を切ります。いくつかの竹に「契り」をはめたまま、溝が合わない竹を、組み合わせる位置に当てて強く握り締め、「契り」の跡をつけます。



- ④ その跡をなぞって鋸で溝を切ります。



竹刀

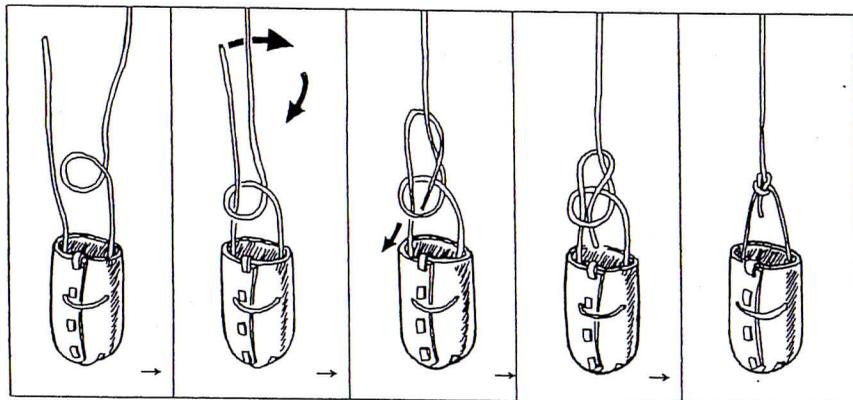
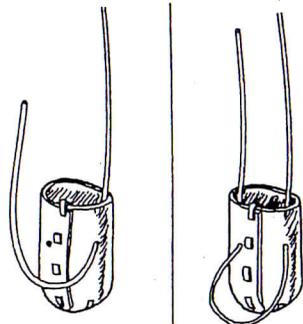
組み立て方-1

- ① まず柄をはめます
(新しい竹を結んである糸は柄をはめてから、はずします)。

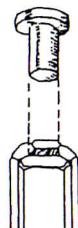


利用するビカンマン！

- ② 先革に弦をつけます。



- ③ 先ゴムを入れます。
先ゴムは竹刀の先の空洞にぴったりした太さのものをいれて下さい(先ゴムの径のほうが小さいと危険です)。



カーボン竹刀は専用の先ゴムを使ってください。

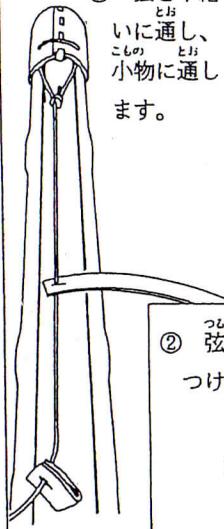
- ④ 先革をはめます



竹刀

組み立て方-2

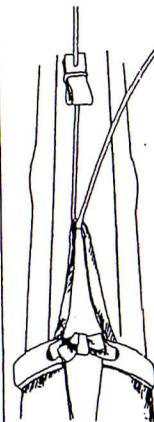
- ① 弦を中結いに通し、ここの小物に通します。



- ② つまここの小物につけます。



- ③ 弦を柄の革紐の先端に通し、



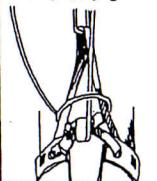
- ④ 小物に戻し、



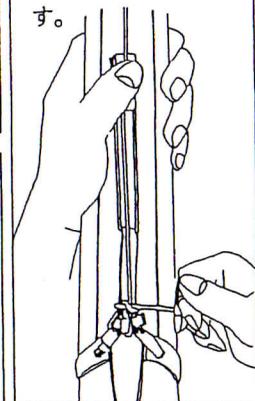
- ⑤ 柄の革紐の元に、上から下へ通し、引っ張ります。



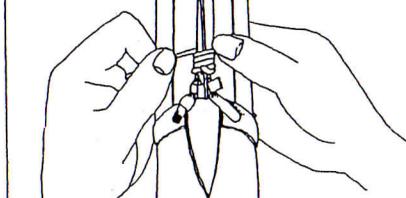
- ⑥ 革紐に巻きつけます。



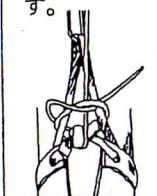
- ⑧ 右手で弦を引っ張りながら左手で小物を下げて弦をピンと張ります。



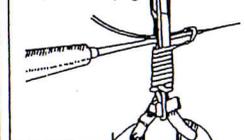
- ⑨ 革紐に7周ぐらい巻きます。



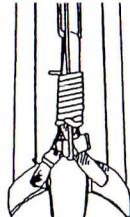
- ⑦ 一つ結びます。



- ⑩ 最後に千枚通しなどで、広げて通して止めます。



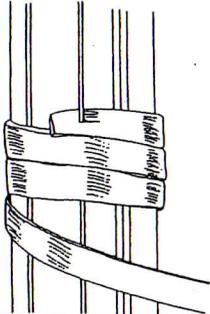
- できあがり



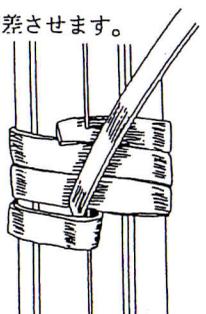
竹刀

組み立て方₋₃

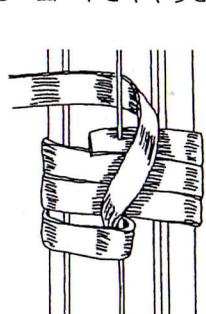
① 中結いを3回巻きます。



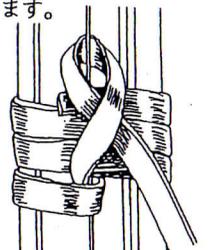
② 弦の下をくぐらせ弦に交差させます。



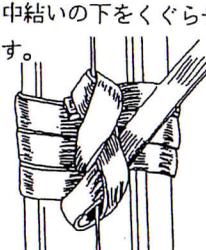
③ 弦の下をくぐらせ、



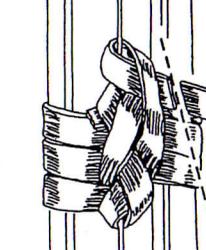
④ 弦に交差させます。直前の中結いの下をくぐらせます。



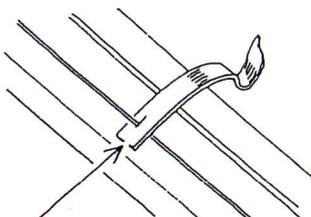
⑤ また、弦の下をくぐらせ、弦に交差させ、直前の中結いの下をくぐらせます。



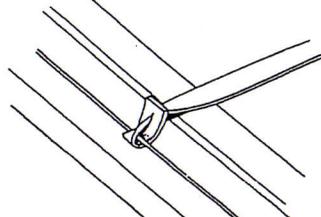
⑥ もう一度同様に結び、余りを切ります。



中結いが切れてしまったときの応急修理は…?



ここを切って、取ってしまう。

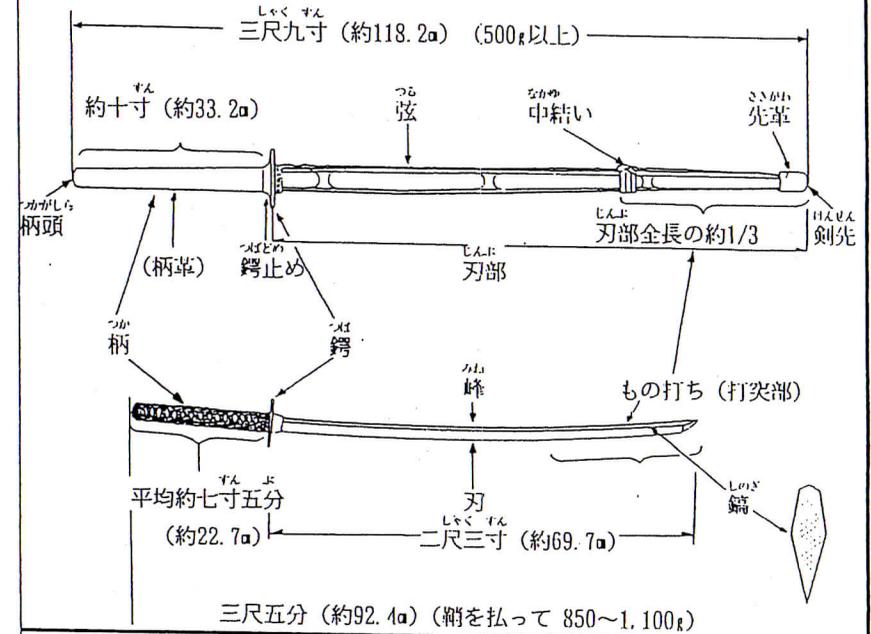


後は上の①からと同じ

竹刀

しくみ₋₁

竹刀の各部位の名称と刀との比較 (成人男子用)



竹刀の重さと長さ

(参照；財団法人全日本剣道連盟 剣道試合・審判規則第3章用具)

長さは付属部品を含む完成品の全長、重さは鍔を含まない完成品の重量です。

性別	竹刀の長さ (cm)				
	小学生	中学生	高校生	大学生・一般	
男女	3R6寸納 (109cm)	3R7寸納 (112cm)	3R8寸納 (115cm)	3R9寸納 (118cm)	
共通	111cm以内	114cm以内	117cm以内	120cm以内	
重さ	男性	390g以上	425g以上	470g以上	500g以上
	女性	390g以上	400g以上	410g以上	420g以上

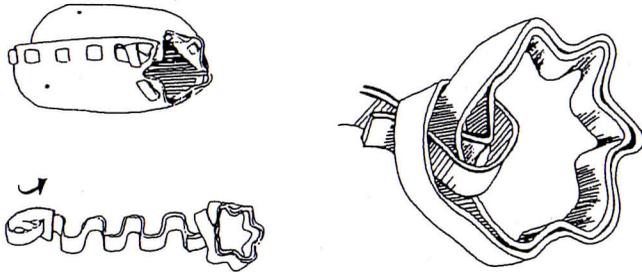
ただし二刀の場合には1本は上記の中学生用、1本は長さ62cm以内、重さ 360g以上。

(注、上の表のうち小学生については剣道連盟の規定はありません。)

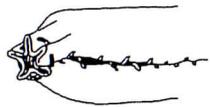
竹刀

しくみ-2

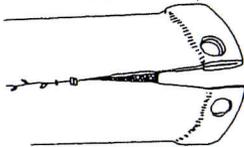
① 先輩；先が開いたり穴があいたらすぐに取り替えてください。修理はできません。



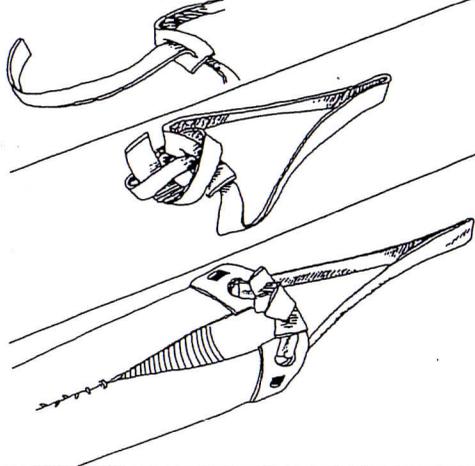
② 柄；柄頭は下の図のように革をすぼめて縫い、裏返してあります。



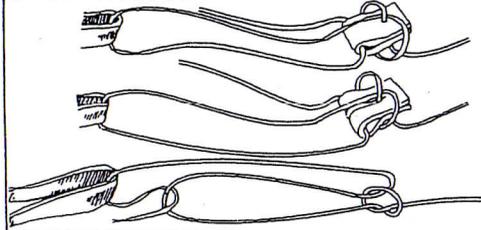
○ 短くするときは、鐙側を切ります。



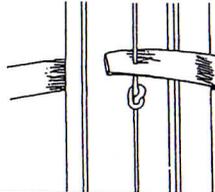
○ 革紐の結び方



③ 弦の取り回しは3種類。



④ 中結いが動かないように弦に結び目を作っても良いです。



Q. 1 竹刀の竹はどんな竹？

A. 1 市販のほとんどが桂竹（唐竹とも）で、台湾産です。直径7～8cmのものを年中伐採します。真竹より繊維が細く堅いため竹刀に適しますが、逆に堅いため真竹に比べて縦割れ、横割れしやすいようです。その上輸入する際の検疫で煮沸して急に乾燥させるようで、自然の水分や油分が抜けてさらにささくれやすくなっています。値段は安いですが、上達して『手の打ちのびえ』が分かりかけたら、高価でも園産の真竹の良い竹刀を使ってみましょう。四季の寒暖や湿度差のある日本（新潟県、長野県、中部地方、四国地方、九州地方）で育ったため、桂竹に比べると真竹は比重が重く弾性に富みます。3～4年で直径8～12cmになったものを10～2月に伐採します。『ささくれ』はできませんが縦割れ、横割れは桂竹に比べると起きにくいです。良いものは、竹刀の『腰』が強く、伸びのある面打ち、鋭い二段打ちや返し技ができ、枝にびえが出ます。

孟宗竹は身が厚く一見丈夫そうに見えますが、弾力性に欠けるため竹刀には向かず、現在では生産されていません。

Q. 2 竹刀はどうやって作るのですか？

A. 2 竹の根元10cmから4尺（約121cm）を縦に6～8本に割って、重畳によって長さを決め、節の合うものを4本組み合わせ、熱で揉めて竹刀の胴の膨らみを作り、削って調整して1本の竹刀が出来上がります（1本の竹から作った竹刀は滅多にありません）。

Q. 3 良い竹刀の条件は？

A. 3 先述のように、竹刀の『腰』が強いことです。『腰』が強い竹刀は、切っ先を床につけて曲げると中結びあたり（物打ちの手前）が程よい反発力をもって曲がります。『腰』の弱い竹刀は鐙のあたりから曲がります。曲がる位置が打突時の力の逃げ場になりますから、『腰』の弱い竹刀は打突の際、鐙から先が棒のように弓なりに曲り鞭のような反動で、防具では防げない強すぎる衝撃になります。面金を突き抜けるなど相手を傷つけたり、自分の手首や肘を痛めたりする恐れもあります。



『腰』の弱い竹刀の特徴は、① 曲げると鐙のあたりから曲がる、② 握りの太さを外側を削って細くしている、③ 胴張り先細りで握りが細く重畳が軽い、などです。

Q. 4 やはり竹刀は「ちくとう（竹刀）」が良いのですか？

A. 4 はい、竹で作ったものが良いです。竹は使っているうちに折れたりささくれたりしますので手入れをします。面金の中へ破片が飛ぶ、ささくれが二の腕に刺さる、などのケガをさせない思いやりが必要です。折れた竹刀が目刺さって失明ないし死亡という不幸な事件もかつて何度かありました。手入れをしながら使うところに、『武士の魂』ならぬ『竹刀を大切にする心』が養われます。手入れを面倒がり、竹に特殊な塗料を塗ったり、薬品をしみ込ませた竹刀やカーボン竹刀で道具を愛する心が生まれましょうか。